「こおりやまの米」通信

郡山市
イメージキャラクター
「がくとくん」

平成２６年３月１日
編集：郡山市　　JA 郡山市（TEL.921-0724）
NOSAI 郡山田村（TEL.933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（TEL.935-1310）
発行:郡山市農作物生産対策協議会（郡山市営農推進課 TEL.924-3761）

Vol. 1 播種準備編(床土の準備～出芽)

次回は4月上旬(育苗後半～田植編)

・昨年に引き続き、塩化カリが３月末までに配布になります。
・塩化カリは、放射性セシウム吸収抑制のため、必ず基肥時に施肥(20kg/10a)してください。

天気予報（仙台管区気象台発表　２月２５日付け、３か月予報から）

時期	天　　気	気　　温
３月	平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	平年より低い確率が４０％です。
４月	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。	平年並みの確立が４０％です。
５月	天気は数日の周期で変わるでしょう。	平年並みの確立が４０％です。

もみ枯れ細菌病とばか苗病の発生が増加しています！適切な管理で防除に努めましょう！

床土の準備

培土の放射性セシウムの暫定許容値は４００Ｂｑ/kgです。山土等を利用する際は注意してください！

良い床土の条件は、**①ｐＨが４．５～５．５である、　②排水性、保水性、通気性のバランスが良い、③細かい粒子があまり多くないこと**です。各種資材で調整してください。

1　物理性はピートモスで改善できます。床土の量に対して３０％程度混和するとｐＨが１下がります。
2　**ｐＨミックス**は、２００～３００ｇ／箱でｐＨが１程度下がります。
3　育苗箱１箱当たりの施肥量は、**チッソ２ｇ、リン酸３ｇ、カリ２ｇ**とします。

１箱当たりの施肥量

肥料	例１：単肥施肥			例２：稚苗用液肥源 (15-19-15)	例３：育苗箱専用 (4-8-5)	薬　剤 (苗立枯病、ムレ苗防止)
	硫安	過石	硫酸カリ			
施肥量	１０ｇ	１５ｇ	４ｇ	１２～１５ｇ	４０～５０ｇ	ﾀﾁｶﾞﾚｴｰｽ粉剤　８ｇ/箱

※単肥施肥の場合、ｐＨが０．５程度下がるので注意しましょう。

種子の準備　～ばか苗病の発生が増えています。種子消毒を行い、育苗中に発生した場合は抜き取りましょう～

１　わら、もみがらの除去

昨年のわらやもみがらには、いもち病菌が潜んでいる可能性があります。種子を取り扱う前に作業場やハウス内のわら、もみがらを除去し、いもち病の感染を防止しましょう。

２　塩水選（比重選）

塩水選は、発芽力が高く、病気にかかっていない種子を選ぶために必ず行いましょう。塩水選後は軽く水洗いして塩分を取り除きます。

塩水の作り方（水 10 ﾘｯﾄﾙ当たり）

種　類	比　重	99%の食塩 (kg)	21%の硫安 (kg)
うるち	１．１３	２．１	２．７
も　ち	１．１０	１．６	２．０

３　種子消毒（例）
※自家採種の場合は、特に徹底して実施しましょう！

使用する種子等	作　業　手　順	備　　考
消毒済みの種子	塩水選⇒水洗い⇒浸種	◎もみ枯細菌病防除のため、28℃以下で管理しましょう。 ◎テクリードＣﾌﾛｱﾌﾞﾙは消毒済み種子には使用しないで下さい。（化学反応で薬剤の効果が弱まる可能性があります。） ◎浸漬消毒の場合、もみと薬液の容量比は1：1以上として下さい。
消毒済みの種子 ＋ もみ枯細菌病の防除	塩水選⇒水洗い⇒**スターナ水和剤**（0.5%湿粉衣）⇒風乾（４日間以上）⇒浸種	
未消毒種子・自家採種種子（もみ枯細菌病防除を含む）	塩水選⇒水洗い⇒**テクリードＣﾌﾛｱﾌﾞﾙ**（200倍液24時間浸漬）⇒風乾せず浸種	

※消毒済みの種子は、ヘルシードＴフロアブルを処理してあります。

浸　種　発芽を揃えるためには、十分に吸水させること　＋　酸素を十分与えることが大切です。

1　**浸種水温**は**１２～１５℃**を目安とします。高すぎても低すぎても、吸水にバラつきが出て発芽揃いが悪くなります。水温が１０℃以下の場合には、浸種期間を長くしても十分には吸水されず、発芽にムラが出てしまいます。

2　**浸種期間**は積算水温（水温×日数）で**１２０～１５０℃**が目安です。水温１２℃の場合は１２日程度、１５℃の場合は１０日程度を基本とします。

3　種もみ袋は余裕をもって、種子を八分目以下に詰めます。**品種を間違わないよう、袋に品種の札をつけます。**

4　酸素不足を防ぐため、大きい入れ物を用いて、水は種子量の２倍以上にします。種もみ袋を積み重ねている場合は、上下を時々入れかえて温度と酸素のムラを防ぎます。

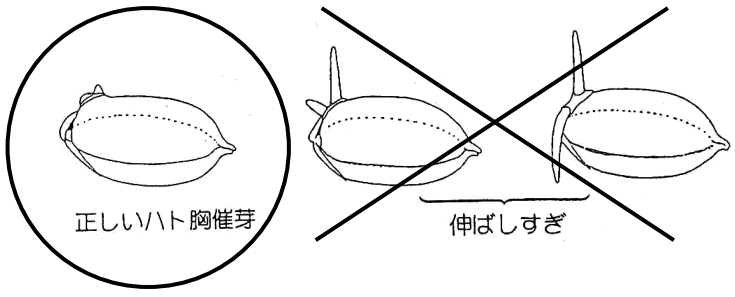
5　薬剤が流出しないよう、浸種を始めてから３日間は水を交換しないようにします。その後は酸素供給のため１～２日の間隔で水を交換しましょう。

催　芽（芽出し）　～温度計の併用で適正な温度管理を！～

播種前に、右図のようなハト胸の状態まで均一に催芽をします。

育苗器や催芽器の温度設定は、２８℃にします。
（３０℃以上ではもみ枯細菌病の危険があります）。

育苗器内では、温度ムラを防ぐため種もみ袋を薄く広げてください。



播　種　～健苗育成は薄播きから！～

薄播きは箱数が多くなってしまいますが、茎や根が太くなり、活着も早く、初期生育が良くなります。

1　**播種量と育苗日数の目安**

苗種	播種量（乾籾重/箱）	育苗日数	葉　齢	備　　考
稚苗	２００ｇ	20～25日	2.0～2.9	催芽もみは、乾もみの1.25～1.3倍重になります。
中苗	１００ｇ	30～35日	3.0～3.9	

厚播きにした場合・・・

【育苗期】
①苗が徒長、老化する。
②茎、根が細くなる。
③葉齢が進まない。

【移植以降】
①活着が悪く分げつが遅れる。
②根が細く根張りが悪い。
③開張せずズンドウ型のイネになる。

2　**薬剤防除（例）**（１箱当たり）

人工培土は焼土殺菌してありますが、外部から菌が侵入すると苗立ち枯病やムレ苗の被害が一気に広がる危険があるので、下記を参考に予防してください。

例１	**【播種前床土混和】** タチガレエース粉剤　６～８ｇ（１回）	✚	**【播種時かん注】** ダコニール1000　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（２回以内）
例２	**【播種時かん注】** ダコニール1000　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（２回以内）	✚	**【発芽後かん注】** タチガレエース液剤　500倍液0.5ﾘｯﾄﾙ（１回）

出　芽　～苗焼けには十分注意しましょう！～

1　**育苗器を利用する場合**　～温度計を併用しながら、育苗器内の温度管理をすること！～

温度設定は２８℃とします。**（３０℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります。）**　芽は１ｃｍ以上伸ばさないようにしましょう。　**品種を間違えないよう、苗箱出し入れの際には名札等をつけましょう。**

2　**平置き出芽の場合**　～高温に注意！～

①　被覆資材の特徴を理解して、効果的に使用しましょう。

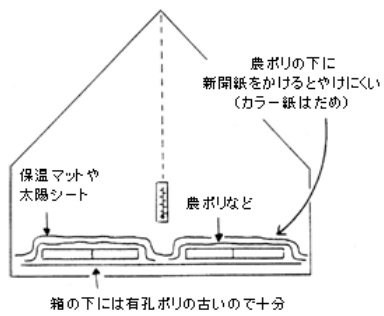
白色マット（保温マット等）－昼間の温度が上がりやすく苗が焼ける心配があるが、低温時は管理しやすい。

銀色のシート（太陽シート等）－温度が上がりにくいので高温時は管理しやすいが、低温時は出芽に時間がかかる傾向がある。

灰色のシートや**灰色＋白色のシート（シルバーラブ等）**
－白色と銀色の中間の性質を持っている。

②　白色マットなど透過性の良い資材は、**新聞紙をシートの下にかけるとヤケ防止**になります。

苗箱付近の温度が３０℃を超えないように注意しながら換気を行います。



③　シートの端には重りをのせるなどし、風でめくれないようにしましょう。

催芽からハウス管理まで、温度管理に注意し、もみ枯細菌病などを出さないようにしましょう！
農薬は登録内容や使用方法をラベル等で確認してから使用しましょう！

この資料は、平成26年2月12日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。